

公園内の戦争遺跡

第一火薬庫

この建物は、鉄筋コンクリート造の構造体に土をかぶせているため、構造体が外から見えません。部屋を二重壁構造にするなど、火薬保管のための温湿度管理に工夫がみられます。建物の構造体に土をかぶせるのは、温湿度管理のため外気の影響を防ぐ工夫とも考えられます。東西通路の北側に前室を伴う三つの主室が設けられ、前室と主室の壁面は杉板張りで仕上げられています。



第一火薬庫外観



第一火薬庫主室

第三信管置場

信管とは、弾丸の弾頭または弾底に取り付け炸薬を発火させる装置です。鉄筋コンクリート造の壁に、木造の屋根を架けた建物構造で、信管が爆発を起こした際、屋根を崩壊させ壁を残すことにより、施設の復旧を容易にする工夫とも考えられます。また爆発事故が起きた際、周囲に被害が及ばないようにするため、建物の周囲には高さ5mほどの土塁を設けています。



防空壕跡

豊川海軍工廠の敷地内には、空襲に備えた防空壕が各所に設けられていました。その多くは人が入れる規模の穴を掘り天井を木材で組み、その上に土を盛った粗末なもので、至近弾に対してほとんど無力なものでした。公園内では3基の防空壕跡が確認されており、いずれも全長約5m、幅1m、深さ1mほどの本体に、2箇所の出入口が屈折して取り付くコの字形の平面形で、掩蓋（天井の覆い）が無かった可能性もあります。



防空壕跡の発掘調査の状況

街路灯

豊川海軍工廠の構内通路には街路灯が設けられていました。その高さは約4.5mあり、鉄筋コンクリート製の柱身の上に鉄製の傘がのり、電球のソケットが傘の中心に埋め込まれています。工場内では電気は地下配線となっており、電気配線は地下から中空となっている街路灯の柱身を通していました。

